

英語専攻大学生の英語辞書使用に関する調査（2）

寺 嶋 健 史

松 山 大 学
言語文化研究 第41巻第1号（抜刷）
2021年9月

Matsuyama University
Studies in Language and Literature
Vol. 41 No. 1 September 2021

英語専攻大学生の英語辞書使用に関する調査（2）

寺 嶋 健 史

はじめに

本論は、英語専攻の大学生を対象に実施した辞書使用に関するアンケート調査結果の後半である。前半の寺嶋（2020）では、本研究の概要に続いて、全6つの設問のうち、被験者の基本情報、A）使用辞書の形態、B）使用辞書の種類、C）一般的な辞書使用、までの結果とまとめを行った。本論では、残りのD）辞書指導とE）辞書使用の実演の結果と、全体のまとめと考察を行う。そのため、本論中の節や表の番号は前半（1）からの続きになっている。

2. 結果と分析

2-2-4. 辞書指導に関する設問

2-2-4-1. 辞書指導を受けた経験の有無

この設問は「辞書指導」に関する調査であり、寺嶋（2020）の2-2-3-1.で尋ねた「辞書使用の促し」とは異なる。辞書指導を受けたことがある被験者は、全78名のうち約半数の40名であった。さらにその40名に対して、辞書指導を受けた時期（学校種と学年）、場面、辞書の種類、実施頻度、指導内容について尋ねた。

指導を受けた学校種は高校が7割で最も多く、学年は入学してすぐの1年生が多い（表13）。中学校での辞書指導の少なさ（16名：4割）は、寺嶋（2020）で言及した教科書巻末単語リストの使用とそれによる辞書不所持・不使用者の

多さが要因であろう。大学で少ないのは、選択科目の違いやアンケート実施時期が新年度開始から日が浅かったためと思われる。3年間通して受けたと答えたのは、中学校で1名、高校で2名であった。

大学生を対象に辞書指導を受けた経験の有無を調査した先行研究の結果は表13Aである。表中の「有」は時期を限定せず過去に辞書指導を受けたことがある割合である。

表13 辞書指導を受けた時期

	全 体		1年生	2年生	3年生	5,6年生
	人数	%	人 数			
小学校	1	2.5	0	0	0	1
中学校	16	40.0	8	2	3	
高校	29	72.5	21	7	6	
大学	1	2.5	1			
無回答	0	0	10			

表13A 辞書指導を受けた時期に関する先行研究との比較

	備考	有	大学	高校	中学	覚えていない
		佐藤 (1995) [英専] ←	高校生	64%		19%
	短大生	60%		18%	82%	
	大学生	62%		0%	100%	
萩野 (1995)	短大生		1.1%	25.6%	31.1%	51.1%
浅羽 (1997)	外国語			45.2%		
	経 済			25.5%		
	法			29.9%		
畠山 (2001)	英文科	53%		25%	75%	
高橋他 (2014)	教育学部		79%	46%	78%	
時國 (2016)	文学部			15%	24%	
福田 (2017)	教職課程 英語?	学校の授業で (31.7%) ↓ 授業外で (3.2%)				20.6%
		10%		55%	35%	
小山 (2019)	2015年度	約6割				
	2017年度	約7割				
本研究	英専のみ	51.3%	2.5%	75.0%	40.0%	

全体的に高校よりも中学校で受ける割合が高い傾向にあるが、本研究では高校時のほうが高い。本被験者には「辞書指導」であると念を押していたが、単に「辞書をよく使ったこと」と混同して回答した可能性もあり得る。なお、この表は指導を受けた有無の結果であり、具体的な指導の内容や頻度などの詳細は次の設問で尋ねている。また、これらの詳細について大学生を対象に調査した先行研究は見当たらないため、ここでは本研究の結果のみを表14に示す。なお、割合の分母は辞書指導経験者数の40である。

まず指導を受けた場面は、どの学校種においても学校の英語の授業であり、塾などの学外での指導は少ない。「その他」は、高校入学直後の合宿で、という回答であった。

次に辞書の種類は、英和辞書が圧倒的に多く、和英辞書も一定数あるが、最も指導が必要な英英辞書はわずかしかない。本研究の被験者のような英語専攻の大学生には、英英辞書の使い方の指導が是非とも必要であろう。

実施頻度はそれほど高くない、年度初めにだけで行われる場合が多い。年間を通して定期的に行われることはほぼ皆無である。なお、表13で中高あわせて3名が3年間指

表 14A 辞書指導の場面

	小学校		中学校		高校		大学		合計
	人	%	人	%	人	%	人	%	人
英語の授業	1	2.5	11	27.5	24	60.0	1	2.5	37
塾など学外	0	0	5	12.5	4	10.0	0	0	9
その他	0	0	0	0	1	2.5	0	0	1

表 14B 指導辞書の種類

	小学校		中学校		高校		大学		合計
	人	%	人	%	人	%	人	%	人
英 和	1	2.5	15	37.5	26	65.0	0	0	42
和 英	0	0	3	7.5	8	20.0	0	0	11
英 英	0	0	1	2.5	3	7.5	1	2.5	5

表 14C 辞書指導の頻度

	小学校		中学校		高校		大学		合計
	人	%	人	%	人	%	人	%	人
年間定期的に	0	0	0	0	1	2.5	0	0	1
不定期に	1	2.5	4	10.0	7	17.5	0	0	11
年度初めに	0	0	9	22.5	10	25.0	1	2.5	20
単発で	0	0	3	7.5	6	15.0	0	0	9

表 14D 辞書指導の内容

	小学校 (4)			中学校 (16)			高校 (29)			大学 (1)			合計
	人	%	(%)	人	%	(%)	人	%	(%)	人	%	(%)	
大まかな引き方の説明	1	2.5	25.0	9	22.5	56.3	12	30.0	41.4	1	2.5	25.0	23
記号など決まり事の説明	1	2.5	25.0	3	7.5	18.8	10	25.0	34.5	1	2.5	25.0	15
辞書全般の概要紹介	1	2.5	25.0	5	12.5	31.3	6	15.0	20.7	1	2.5	25.0	13
早引き競争	1	2.5	25.0	4	10.0	25.0	7	17.5	24.1	1	2.5	25.0	13
引かずに推測	0	0	0	3	7.5	18.8	7	17.5	24.1	0	0	0	10
発音記号や音節参照	0	0	0	2	5.0	12.5	7	17.5	24.1	0	0	0	9
用例参照	0	0	0	4	10.0	25.0	4	10.0	13.8	0	0	0	8
辞書使用の意義説明	0	0	0	1	2.5	6.3	7	17.5	24.1	0	0	0	8
辞書種類の使い分け	1	2.5	25.0	1	2.5	6.3	3	7.5	10.3	1	2.5	25.0	6
使い方の頁参照	1	2.5	25.0	1	2.5	6.3	1	2.5	3.4	1	2.5	25.0	4
複数辞書の使い比べ	0	0	0	0	0	0	2	5.0	6.9	0	0	0	2
辞書引き練習帳の使用	0	0	0	0	0	0	1	2.5	3.4	0	0	0	1
とにかく引く	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
覚えていない	0	0	0	0	0	0	0	0	20.7	0	0	0	0
その他 (詳細は右枠)	0	0	0	2	5.0	12.5	7	17.5	24.1	0	0	0	9
無回答	3 [7.5%]												3

*% : 辞書指導経験者全 40 名に対する割合、

(%) : 当該学校種での辞書指導経験者に対する割合

導を受けたことに触れたが、「定期的に」実施されたかどうかは不明である。

実際に受けた指導内容をまとめた表 14D を見ると、最も多くの被験者が受けたことは「大まかな引き方」で、辞書指導経験者全 40 名中の 2～3 割、当該学校種での経験者だけで見ても 4～5 割程度である。半

数以上の被験者が受けた指導内容が他には無い。多数が共通して受ける基本的な指導事項がもっとあるべきではないだろうか。各学校種で顕著な傾向は特に見られない。本来であれば具体的な指導の前に、英語学習における辞書使用の意義を理解させ、引き方の説明から指導に入ることが妥当な流れであるが、実

その他の詳細

- ・印刷辞書を使う (3)
- ・未知語は自主的に調べる
- ・第二語義以降も見る
- ・印刷版の英英辞書を使う
- ・効率的な引き方ができるように
- ・派生語などの情報の場所を知る
- ・辞書にはレベルがある
- ・電子辞書の発音機能を使う
- ・付箋紙を使う
- ・中学生の時に「ジーニアス」を使うように

際はそうではなさそうである。表 14B で、和英辞書と英英辞書を対象に指導を受けた被験者が数名いたが、その具体的指導内容が表 14D に含まれているかどうかはわからず、別途尋ねておくべきであったかもしれない。

2-2-4-2. 電子辞書に特化した指導

最も多く使用されている辞書形態が電子辞書であることや、電子辞書の機能を活用し切れていない使用者が多いことに寺嶋（2020）で言及した。この設問では電子辞書に特化した指導を受けた経験の有無を尋ねた。その経験者は 12 名で全被験者の 15.4%，全辞書指導経験者中の 30.0% に相当する。その 12 名にどのような指導を受けたかを尋ねたところ、印刷辞書との比較（長所・短所・両辞書の使い分け）という回答が多かったが、説明を受けただけなのか、実際に使って実践したのか、等の詳細がわかる回答構成にしていなかったため、残念ながらそれ以上の詳細を知ることができない。ちなみに小山（2019）によると、電子辞書指導を受けた学生は半数以下で、2015 年度の調査では 2 割程度と報告している。

2-2-4-3. 辞書指導について思うこと

今までに何らかの辞書指導を受けたことがある被験者とない被験者に、それぞれ思うことを答えてもらった（表 15）。経験者の約 6 割が指導をしてもらってよかったと思う一方で、約 3 割はしてもらわなくてもよかったと答えている。未経験者では、「してもらわなくてよかった」と「わからない」が多く、「してもらいたかった」は 2 割程度であった。英語専攻者の「自信」によるものか、あるいは

表 15 辞書指導について思うこと

辞書指導経験者		
	人	%
指導してもらってよかった	24	58.5
異なる時期にしてもらいたかった	0	0
指導してもらわなくてもよかった	12	29.2
わからない	4	9.8
無回答	1	2.4
辞書指導未経験者		
	人	%
指導してもらいたかった	8	23.5
指導してもらわなくてもよかった	14	41.2
わからない	11	32.4
無回答	1	2.9

辞書指導は実際に受けてみなければその効果を実感できないことによるものか。いずれにしても、非英語専攻者の声も集めて比較検証してみる必要がある。なお、経験者が未経験者用の設問に回答（とその逆も）した被験者が3名いたが、集計からは除外している。

2-2-4-4. 辞書に関して言われたこと

表 16 辞書に関して言われたこと

	人	%		
第二語義以降も参照する	30	38.5	中学校で習っているはず	1
毎授業に辞書を持参する	29	37.2	辞書を忘れたら家に取りに帰る	1
頻繁に引く	23	29.5	英英辞書を使う	1
調べたら下線や書き込みをする	23	29.5	新出単語を調べてくる	1
すぐに引かずに推測する	20	25.6	未知語はすぐ調べる	1
汚れるまで使い込む	17	21.8	後で辞書を引く	1
電子辞書は使用禁止	14	17.9	調べた語をまとめる	1
語義以外の情報も見ると	6	7.7	授業中は印刷辞書を使う	1
電子辞書よりも印刷辞書を推奨	3	3.8	中学生用の辞書を使わない	1
辞書と友達になる	2	2.6	発音を聞く	1
			使い込めば見たいページがすぐに開くようになる	1

過去を振り返って、教員や周囲から辞書に関して言われたことで、覚えていることや印象に残っていることを答えてもらった結果が表16である。表の右側は1名だけの回答である。第二語義以降の参照と毎授業への辞書持参（4割弱）、頻繁使用と調べた際の印や書き込み（3割）、そして引かずに推測（25.6%）が続く。電子辞書使用の禁止や制限は今でも一部で続いていることがわかる。

2-2-5. 辞書使用の実践課題

最後に、辞書の一部のコピー（図1）を見て、①辞書中で使われている記号や印の意味を理解しているか、②熟語表現を見つけ出して英文を作ることが出来るか、を調べるための実践課題を用意した。1つ目の課題には、他動詞を表す㊸、不可算名詞を表す㊹、見出し語の音節をあらわす中点「・」の3つを選



図 1 実演用の辞書の一部のコピー

んだ。2つ目の課題では、見出し語“way”の中にある“elbow one’s~”「ひじで押して進む」を使った「太郎は人ごみの中をひじで押して進んだ」の英文を作らせた。この場合、人称代名詞の汎用表記 one を主語に応じて変化させること、“~”の部分に見出し語の“way”を入れること、これらの情報が第一語義から離れた関連情報欄に示されていること、の3点をクリアする必要がある。なおこの課題で使用した辞書は、本研究の被験者の多くが所持している「ジーニアス」で、第5版と第3版から引用した。第3版を利用したのは、2つ目の課題のポイントが同一ページ内に収まってレイアウトされているためである。

2-2-5-1. 1つ目の課題の結果

まず辞書中の記号の意味を大学生が理解しているかを調査した先行研究を紹介する。西村他（2000）では、㊦は6割以上が理解していると回答したのに対し、㊧については半分以上が理解していない（約45%）としている。萩野（1995）では、㊨/㊩の意味を知っていたのは32.2%で、22.2%は知っているが覚えておらず、45.6%は知らない、という結果になっている。畠山（2001）ではそれを理解しているのは30.61%となっている。ところが非英語専攻者を対象にした畠山（1996）では、辞書で使われる記号の意味を被験者の90.4%がわかると回答している一方で、別の調査で㊨/㊩の正しい意味を答えることができた学生は皆無で言葉どおりには受け取れないと補足している。またTono（1998）によると、㊨/㊩の記号を理解していると回答した大学生は56%いたが、実際に使えたのは45%で、㊦/㊧では85%に対して使えたのはわずか53%であり、記号の意味を本当に理解している大学生は少ないことを指摘している。そこで、本調査では実際に理解しているかどうかを直接尋ねてみることにした。

まず1つ目の課題について、辞書中で使われる

表 17A 各問正解者

		人数	%
「他」		69	88.5
「U」		36	46.2
「・」	○	22	28.2
	△	7	9.0

表 17B 各問の誤答例と人数（複数回答）

「他」	人	%	「U」	人	%	「・」	人	%	%(△)
他の意味	5	55.6	使用例, 例文	8	19.0	意味の区切り	17	30.4	34.0
わからない	1	11.1	名詞, 加算名詞	6	14.3	アクセント	2	3.6	4.0
無回答	3	33.3	熟語	4	9.5	発音に便利	1	1.8	2.0
			動詞の用法	1	2.4	連語	1	1.8	2.0
			主な意味	1	2.4	わからない	4	7.1	8.0
			修飾	1	2.4	無回答	20	35.7	40.0
			その語の後に来る	1	2.4	△			
			わからない	4	9.5	発音の区切り	7		14.0
			無回答	24	57.1	* %△: △を含んだ場合の割合			

3つの記号の意味を尋ねた問題の正解者数とその割合は表 17A, 各問の主な誤答例一覧が表 17B（割合は各項の誤答者数に対する値）である。

1. ㊦

69名（88.5%）が正解した。しかし他動詞という言葉は知っていても、その内容まで本当に理解しているかどうかは不明である。誤答例は基本的には「他の意味」の1つだけで、主に「第一語義以外の意味」を指すと思われる。漢字の「他」からの推測で、ありがちな誤答といえる。

2. U

正解者は36名（46.2%）であった。様々な誤答例のうち、「使用例・例文」（8名：19.0%）が最も多い。その中には、“use”の頭文字“u”を表すという「もっともらしい」説明もあった。正答とは真逆の「加算名詞」という回答もあり、不加算名詞のつもりで誤って書いてしまっている可能性も無くはない。「修飾」と「その語の後に来る」の回答については、何を意味したかったのかは不明である。

3. 中黒「・」

正解者（表 17A の○）はわずか22名（28.2%）であった。正答には「どちらを強く読むかわかるように」「アクセントを見やすくする」のような回答を含み、音節のことを表現した回答とみなした。一方、誤答例で最多の「意味の区切り」には、「en と joy の意味の切れ目」「2つの異なる意味の単語がつながっていることを示す印」などの回答が含まれるが、これらは複合語に使われるハイフンの役割の意味と取り違えていると思われる。一方で、7名が正解とすべきかどうか判断に困る回答をした（表 17A の△）。表 17B の「発音の区切り」は、「発音の区切り」（5名）と「発音を2つの塊に分ける」（2名）から成る。音節を理解した上での回答かどうか分からない。もしこれらを正解とみなすとこの観点の正解者は29名（37.2%）に増える。「接辞（接頭語・接尾語）の区切り」という回答も見られた。中点は接辞の前後でも使われることがあるが、今回の課題の場合は接辞に該当しないため正解に含めなかった。

表 17C は、3つの問題の正誤パターン別回答一覧である。表中の△は判断に迷う回答を表している。全問正解者はわずか15名（A：19.2%）で、△を正解とみなす場合は16名（A+H：20.5%）になる。2問正解パターンは26名（C+D+H+I：33.4%）または28名（C+D+G+I：35.9%）で、1問のみ正解パターンは30名（B+G+JまたはB+F+J：ともに38.4%）、そして全問不正解者は4名（E：5.1%）または7名（E+F：8.9%）である。1問のみ正解が多く、とりわけ他動詞のみ正解のBが最多で全被験者の3分の1を占めている。

表 17C 正誤一覧

型	他	U	・	人数	%
A	○	○	○	15	19.2
B	○	×	×	26	33.3
C	○	○	×	18	23.1
D	○	×	○	6	7.7
E	×	×	×	4	5.1
F	×	×	△	3	3.8
G	○	×	△	3	3.8
H	○	○	△	1	1.3
I	×	○	○	1	1.3
J	×	○	×	1	1.3

2-2-5-2. 2つ目の課題の結果

この課題の正解は、“Taro elbowed his way through the crowd.”であるが、先述のクリアすべき3つの観点にもう1観点を加えた計4つの観定の趣旨と正誤判断基準は、以下のとおりである。

1. 見出し語の第二語義にある“make one’s ~ through the crowd”のバリエーションとして関連情報欄にある“elbow one’s ~”を選んでいるか。

この観定の趣旨は、動詞として“make”ではなく“elbow”を見つけ出すことであるため、過去形（elbowed）になっていなくても正解とした。それ以外の動詞を書いた場合は不正解とした。

2. “one’s”を主語に応じて“his”に変化させているか。

人称代名詞の所有格を選ばなければならないため、“he”や“him”のような所有格以外を書いている場合や、“Taro’s”のように人称代名詞にしていない場合は不正解とした。

3. “～”が見出し語の代用を表していることを理解しているか。

“～”に見出し語“way”を入れるだけのことであるため、入れていれば正解、または入れていなければ不正解のいずれかである。

表 18A 各観点正解者

	人数	%
elbowed	34	43.6
his	59	75.6
way	45	57.7
修飾部	53	67.9

4. “through the crowd”を転用できているか。

見出し語の第二語義に“make one’s～through the crowd”があるため、修飾部の“through the crowd”は課題文にそのまま転用できる。関連情報欄に気を取られて、転用可能な修飾部を利用せずに自作表現にしている場合は、全体の意味は誤っていなくても不正解とした。これは辞書の情報を読み取って活用する力を見るためである。

各観点の正解者数と割合は表 18A である。第 2 の観点“his”の正解者が最も多い(75.6%)。逆に少ないのは第 1 の観点“elbowed”で 5 割を切っている。見出し語“way”からかなり離れたところに関連項目として別記されていたため目が行き届かなかったと考えられる。“～”の意味を理解しているのは 6 割

表 18B 各観点の誤答例

elbowed			his			修飾部		
誤答例	人	%	誤答例	人	%	誤答例	人	%
made	27	64.4	無・抜	7	36.8	無・抜	11	44.0
他の動詞*	7	15.9	one’s	5	26.3	in the crowd	4	16.0
make	5	11.4	him	2	10.5	in people	3	12.0
無・抜	3	6.8	Taro’s	2	10.5	in a crowd	1	4.0
maked	1	2.3	himself	1	5.3	in crowd	1	4.0
elbowed and made	1	2.3	him’s	1	5.3	in public	1	4.0
			people’s	1	5.3	in many people	1	4.0
						the crowd	1	4.0
						into crowd	1	4.0
						clowd	1	4.0

*他の動詞

went, enjoyed, was made, go, struggle, is walk, throw

以下である。

各観点の誤答例は表 18B のとおりである。まず“elbowed”については、27名(当該誤答者の64.4%)が“made”と書いている。第二語義欄と関連情報欄で“make one’s~”という表現がまず目につくためであろう。1名は“elbow”を選ぶことができているのに見出し語に惑わされて“elbowed and made”と書いてしまっている。「他の動詞」の“struggle”は関連情報欄の動詞のバリエーションの1つを誤って選んだと思われる。“throw”は修飾部の“through”の誤表記かもしれない。次に“his”に関しては、当該部分そのまま全部抜けている回答(「無・抜」)と“one’s”をそのまま書いてしまっている回答が多く、辞書の決まりを理解できていないと思われる。一方、“him”や“himself”といった代名詞の格変化の誤りの原因については、代名詞を主語に合わせることはわかっているが“one’s”が所有格を意味することをわかっていない、あるいは所有格がhisであるという基本をわかっていないという英語専攻者の中でも時折見られる初歩的な誤り、のいずれかであろう。そして表中には無いが、“way”の不正解者33名(42.3%)全員が“Taro elbowed his through the crowd.”のように書いていた。“~”を「以下続く」や「略」と解釈したのかもしれない。最後に、修飾部“through the crowd”については、表 18B にあるように実に様々な表現を自分なりに考えて書いている。ここで示した4観点以外の誤りもたくさんあったが割愛する。

以上4つの観点の正誤パターン別回答の一覧は表 18C である。表中の*印は、本調査の趣旨とは直接関係がない箇所での誤りの数である。例えば、単語の綴りや句読法の誤り、冠詞の抜けなどは、本調査の趣旨である「辞書の基本を理解しているかどうか」に直接関係がないため、誤答と見なさなかった。

全観点正解者(1A, 1B)は18名(23.1%)にとどまった。そのうち完全正解者(1A)はわずか12名(14.1%)である。誤答で最も多いのは、動詞elbowが選べていないが、その他は正解している2Aである(15名:19.2%)。全問不正解の2Cは、人数では7名と多くはないが、誤答回答全パターン中では3

表 18C 2つ目の課題 正誤一覧と代表的な回答例

型	全体	elbow	his	way	修飾	人数	%	*	合計
1 A	◎	○	○	○	○	11	14.1		18 (23.1%)
1 B	○	○	○	○	○	7	9.0	7	
2 A	×	×	○	○	○	15	19.2		61 (78.2%)
2 B	×	×	○	×	○	10	12.8	2	
2 C	×	×	×	×	×	7	9.0		
2 D	×	○	×	×	○	5	6.4	3	
2 E	×	×	○	○	×	4	5.1		
2 F	×	×	○	×	×	4	5.1		
2 G	×	○	○	○	×	4	5.1	2	
2 H	×	○	○	×	×	3	3.8	3	
2 I	×	○	×	○	×	3	3.8	1	
2 J	×	×	×	×	○	3	3.8		
2 K	×	○	○	×	○	1	1.3	1	
2 L	×	×	×	○	○	1	1.3		

型	各パターンの代表的な回答例
1 A	Taro <u>elbowed</u> his way through the crowd.
1 B	Taro <u>elbow</u> s his way through the crowd.
2 A	Taro <u>made</u> his way through the crowd.
2 B	Taro <u>made</u> his <u>elbow</u> through the crowd.
2 C	無回答, 他は論末資料 2 を参照
2 D	Taro <u>elbowed</u> <u>one's</u> through the crowd.
2 E	Taro <u>made</u> his way <u>in people</u> .
2 F	Taro <u>enjoyed</u> his <u>elbow in people</u> .
2 G	Taro <u>elbowed</u> his way <u>in the crowd</u> .
2 H	Taro <u>elbow</u> his <u>in people</u> .
2 I	Taro <u>elbow</u> <u>one's</u> way <u>in many people</u> .
2 J	Taro <u>made</u> <u>Taro's elbow</u> through the crowd.
2 K	Taro <u>elbow</u> <u>his</u> through the crowd.
2 L	Taro <u>made</u> <u>people's</u> way through the crowd by <u>elbow</u> .

番目に多い。各パターンの全回答は論末資料1に挙げている。

以上のことから、本研究の被験者の多くは、詳細な点まで辞書を使いこなせるレベルにまでは達していないと言わざるを得なさそうである。

3. まとめと考察(2)

本章の前半では、本論で扱ったD) 辞書指導とE) 辞書使用の実演の設問の結果をまとめ、後半では本研究全体のまとめと考察を行う。

辞書指導を受けた経験者は51.3%で、その4割は中学時代、7割は高校時代に受けている(他の研究結果では中学時代が多い)。授業中に英和辞書を使って年度初めの実施が多く、年間を通した定期的な指導や被験者の半数以上が共通して受けた指導事項はほとんど無い。電子辞書指導を受けたのは3割程度である。辞書指導経験者の6割は受けてよかったと感じている一方で、受けなくてもよかったと感じた被験者の割合もそれなりに多い。これらの要因は英語専攻によるものかどうかは不明である。

辞書で使われる記号の理解度は、㊦が88.5%(主な誤答例は「他の意味」)、㊧が46.2%(同「使用例」)、音節を表す中点「・」は28.2%(同「意味の区切り」)で、全問正解者は19.2%あった。見出し語の関連情報欄から目標とする動詞のバリエーションを選ぶことができたのは43.6%、one'sを正しい代名詞に置き替えることができたのは75.6%、“～”に見出し語を入れることができたのは57.7%、例文で使われている熟語表現の一部を作文に転用できたのは67.9%で、これら全てをクリアできたのはわずか23.1%であった。英語専攻者にしては出来が良いとは言えない。

本論で取り上げた2つの設問、D) 辞書指導とE) 辞書使用の実演では、英語専攻者特有の傾向は見られなかった(特定できなかった)ことから、本調査全般における英語専攻者の特徴は寺嶋(2020)のまとめで示された内容のみとなる。つまり、辞書使用率(特に和英・英英辞書と電子辞書)が非専攻者より

も高いことと英和辞書利用の際に例文をよく参照することである。英語専攻者特有の傾向を調べるには、同時期に非英語専攻者に対しても同様の調査を実施しておかなければならなかったが、諸事情でそれが叶わず今回は英語専攻者のみに対しての調査実施となり、可能な範囲で先行研究との比較を行うだけになってしまった。しかし、近年普及しているネット環境とスマホなどの携帯端末機を利用したオンライン辞書や辞書アプリの使用者の増加といった新しい実情が明らかになった一方で、中学校での辞書利用の低さ、辞書指導の不十分さ、そして実際に辞書を十分に使いこなすことができる大学生の少なさといった以前から指摘されている事実が今でも認められることがわかった。

辞書は英語学習に必要な情報の宝庫であり、主な語義だけが掲載された簡易辞書ではなく、時間と手間はかかるものの、学習用辞書を使いこなすことで英語力の基礎が身に付くはずである。最もよく使われるタイプである電子辞書のための辞書指導が必要であり、さらに昨今は電子辞書に変わる新しい辞書形態も普及していることもあり、早い時期から段階に応じて様々なタイプの辞書に対応した辞書指導と辞書使用の習慣づけが求められる。特に英語専攻者には英英辞書を対象にした辞書指導も必要であろう。そして、今回は事実上叶わなかった辞書に関する英語専攻者と非専攻者との比較調査を実施し、両者の特性に応じた辞書指導および使用のあり方を検討できるようにしたい。

参 考 文 献

*印は、本論中の文献

- *浅羽亮一（1997）. 「英語教育における英和辞典について－学習者の立場から－」『明海大学外国語学部論集』 9, 123-137.
- 言語生活編集部（1984）. 「アンケート 辞書の利用状況」『言語生活』第 388 号, 50-55.
- 小川貴宏（2018）. 「日本における独立携帯型辞書検索端末（いわゆる「電子辞書」）の現状と課題」『成蹊大学一般研究報告』 50(7), 1-17.
- Kobayashi, C. (2008). The Role of Pocket Electronic Dictionary in EFL Learning. 『天理大学学報』 60, 103-122.
- 小山敏子・山西博之（2016）. 「大学生の英語学習における『スマホ辞書』利用の現状」『第

- 42 回全国英語教育学会埼玉研究大会発表予稿集』276-277.
- 小山敏子・山西博之(2017).「大学生の英語辞書利用に対する意識変化」『全国英語教育学会第43回島根研究大会発表予稿集』322-323.
- 小山敏子・藪越知子(2018).「大学生英語学習者は『なにを使い』『どのように』言語情報を入力しているのか」『外国語教育メディア学会第58回全国大会予稿集』120-121.
- * 小山敏子(2019).「スマホ版辞書の可能性：電子辞書との比較において」2015~2018年度文部科学省科学研究費補助金基盤研究(C)研究成果報告書. <https://kaken.nii.ac.jp/ja/file/KAKENHI-PROJECT-15K02739/15K02739scika.pdf> (2020年5月20日アクセス)
- * 佐藤洋(1995).「学習英和辞典をめぐる調査－英和辞書はどう役立っているか－」『學苑』663, 20-29. 昭和女子大学近代文化研究所.
- 勝呂讓(1988).「自主学习の実態と辞書指導のあり方－単語検索能力は実力を反映するか－」『沼津工業高等専門学校研究報告』22, 75-86.
- 関山健治(2005a).「電子辞書の利用者行動に関する実証研究－利用者は電子辞書を本当に使いこなせているのか?－」『外国語メディア教育学会中部支部研究紀要』16, 11-22.
- 関山健治(2005b).「辞書をどう教えるか－電子辞書を視野に入れた辞書指導の方向性－」『ことばと人間』5, 21-32.
- * 高橋渉・酒井英樹・田中江扶・金子史彦・田中真由美・Colleen Dalton・津金俊文・小泉一輝・戸谷裕美子(2014).「英語教育における辞書の活用－新学習指導要領に対応して－」『信州大学教育学部附属教育実践総合センター紀要教育実践研究』15, 1-10.
- 種村俊介(2008).「和辞書指導のための実態調査－沼津高専1年生を対象として－」『沼津工業高等専門学校研究報告』42, 317-326.
- 寺嶋健史(2007a).「現職英語教員の学生時代の辞書使用に関する一考察」『言語文化研究』27(1), 45-60.
- 寺嶋健史(2007b).「中学校・高等学校の英語授業における辞書使用の実態調査－愛媛県の英語教員を対象にしたアンケート調査から－」『大学英語教育学会 中国・四国支部研究紀要』4, 19-36.
- * 寺嶋健史(2020).「英語専攻大学生の英語辞書使用の実情(1)」『言語文化研究』40(2), 71-99.
- * 時國滋夫(2016).「英語辞書指導に関する一考察－辞書指導のための基礎データ(2015年度大学生約600人分)と考察－」『立正大学文学部研究紀要』32, 149-162.
- 鞆大輔(2012).「大学生の携帯情報端末の利用に関する調査」『教育アンケート調査年間2012上』513-518. 創育社.
- 中山千夏・大崎さつき(2009).「読解における効果的な電子辞書指導を目指して－辞書スキル特定のためのインタビュー結果から－」『共愛学園前橋国際大学論集』9, 61-78.
- * 西村公正・須賀廣・鷹家秀史(2000).「英和辞典はどのように利用されているか?－大学生・高校生881名の利用状況の分析－」『関西外国語大学 研究論集』71, 277-293.

- * 萩野敏 (1995). 「辞書指導としての『学習英語辞典検討レポート』」『大塚フォーラム』13, 84-89.
- * 畠山豪 (2001). 「辞書指導の必要性と重要性－大学生の楽手英和辞典の利用に関する調査から－」『盛岡大学英語英米学会会報』12, 60-68.
- * 畠山利一 (1996). 「英和辞典の使われ方－大学生へのアンケート調査より－」『国際研究論叢』10 (1/2), 79-92.
- Hatakeyama, T. (1998). A Study on the use of English-Japanese Dictionaries. *Osaka International University Journal of International Studies* 11(3), 43-55.
- * 福田稔 (2017). 「中学校英語における辞書指導について」『宮崎公立大学人文学部紀要』24(1), 185-196.
- 藤田恵里子 (2019). 「大学生が使用する英語辞書形態と英語熟達度に関する実態調査」『第12回 JACET 関東支部大会発表要綱』54-55.
- ベネッセ総合教育研究所 (2015). 「第5回学習基本調査」データブック [2015]. <https://berd.benesse.jp/shotouchutou/research/detail1.php?id=4801> (2020年5月25日アクセス)
- 山岸勝栄 (1998). 『学習和英辞典編纂論とその実践』こびあん書房.

資料1 辞書使用実践2つ目の課題の回答一覧

型	elbow	his	way	修飾	実際の回答
1 A	○	○	○	○	Taro <u>elbowed</u> his way through the crowd.
1 B	○△	○	○	○	Taro <u>elbow</u> his way through the crowd.
					Taro <u>elbow</u> his way through the crowd.
					Taro <u>elbows</u> his way through the crowd.
					Taro <u>elbow</u> his way through the crowd.
					Taro <u>elbow</u> his way through the crown.
2 A	×	○	○	○	Taro <u>made</u> his way through the crowd.
					Taro <u>made</u> his way through the crowd with his elbow
					Taro <u>made</u> elbow his way through the crowd.
					Taro <u>made</u> his way through the crowd with elbow.
					Taro <u>made</u> his way through the crowd with his elbow pushing.
					Taro <u>made</u> his way through the crowd.
					Taro <u>elbowed</u> <u>and made</u> his way through the crowd.
					Taro <u>made</u> his elbow way through the crowd.
					Taro <u>made</u> his way through the crowd.
					Taro <u>make</u> his elbow through the crowd.
					Taro <u>made</u> his way through the crowd using his arm.
					Taro <u>made</u> his elbow way through the crowd.
					Taro <u>made</u> his way through the crowd with his elbow.
Taro <u>made</u> his elbow way through the crowd.					
Taro <u>made</u> his way through the crowd with his arms pushed.					

2B	×	○	×	○	Taro made his <u>ひじ</u> through the crowd.
					Taro made elbow his <u>through</u> the crowd
					Taro made his <u>elbow</u> through the crowd.
					Taro make his <u>through</u> the crowd.
					Taro made his <u>elbow</u> through the crowd.
					Taro make his <u>elbow</u> through the crowd.
					Taro made his <u>through</u> the crowd.
					Taro make his <u>push elbow</u> through the crowd.
				○△	Taro made his <u>shoulder</u> through the crowd.
					Taro made his <u>elbow</u> through the crowd.
2C	×	×	×	×	Taro is walk for taro's elbow into crowd.
					Taro was went out to in the crowd with put his hands.
					Taro struggle elbow one's crow
					無回答
					Taro go while putting throw cloud
					Taro went to crowded place with pushing needs
2D	○	×	×	○	Taro elbowed <u>one's</u> through the crowd.
	○△				Taro elbowed <u>through</u> the crowd.
					Taro elbow <u>him</u> through the crowd.
					Taro elbow <u>one's</u> through the crowd.
					Toms elbow <u>through</u> the crowd.
2E	×	○	○	×	Taro made elbow his way
					Taro made elbow his way <u>in</u> a crowd
					Taro made his way <u>in</u> people.
					Taro made his way <u>with his elbow in the crowd.</u>
2F	×	○	×	×	Taro <u>with</u> his elbow
					Taro enjoyed his <u>elbow in</u> people.
					Taro through his <u>elbow the</u> crowd.
					Taro made his <u>elbow</u>
2G	○	○	○	×	Taro elbowed his way <u>in</u> the crowd.
	○△				Taro elbowed his way <u>in public.</u>
					Taro elbow his way <u>in</u> the crowd.
					Taro elbow his way <u>in</u> the crowd.
2H	○△	○	×	×	Taro elbow <u>his in</u> people.
					Taro elbow <u>his</u>
					Tao elbow <u>his</u>
2I	○	×	○	×	Taro elbowed <u>him</u> way <u>in</u> crowd
	○△				Taro elbowed <u>one's</u> way
					Taro elbow <u>one's</u> way <u>in many</u> people.
2J	×	×	×	○	Taro make <u>him's elbow</u> <u>him's</u> through the crowd.
					Taro made Taro's <u>elbow</u> through the crowd.
					Taro made <u>himself</u> though the crowd his elbow.
2K	○△	○	×	○	Taro elbow <u>his</u> through the crowd.
2K	×	×	○	○	Taro made <u>people's</u> way through the crowd by elbow.

資料2 実施したアンケート

英語辞書に関するアンケート

学籍番号: _____

氏名: _____

出身校: _____ 中学校/ _____ 高校

高校の時の文・理系、「特進」等のコース名(もしあれば) _____

現在英語は好きですか。
 (好き ・ どちらかと言えば好き ・ どちらかと言えば嫌い ・ 嫌い)

中学・高校時代に英語は得意でしたか(例えば、他教科の成績と比較して)。
 中学生の時:(得意 ・ どちらかと言えば得意 ・ どちらかと言えば不得意 ・ 不得意)
 高校生の時:(得意 ・ どちらかと言えば得意 ・ どちらかと言えば不得意 ・ 不得意)

学校の授業以外で、英会話学校、検定資格取得のための自主勉強、外国人の友人、海外在住、等で、英語に触っていましたか(いますか)。 *海外旅行は対象外
 中学生入学時: (はい ・ いいえ) 中学生の時: (はい ・ いいえ)
 高校生入学時: (はい ・ いいえ) 高校生時: (はい ・ いいえ)
 大学生入学後: (はい ・ いいえ) 大学生の時: (はい ・ いいえ)

現在、最もよく使う英和辞書は以下のどれですか、Iつ〇をして下さい。
 (ジェーニアス ・ ウイズダム ・ オーレックス ・ ルミナス ・ スーパーアンカー ・
 ライトハウス ・ プログレッシブ ・ その他 [] ・ わからない)

現在使用中の英和辞書は、初めて使用したものから数えて、() 冊目 [書籍辞書の場合]
 () 冊目 [電子辞書の場合]

A. 使用辞書の形態に関する質問に答えてください。

1) 現在に至るまで、授業関係と授業外で、よく使っていた【よく使う】英語辞書の形態について、下の表に〇を記入して下さい。(複数記入可)
 *辞書をあまり使っていない辞書は、下表の「不使用」欄から選んで〇をして下さい。

書籍辞書	中学生入学以前		中学生の時		高校生の時		大学入学後	
	授業関係	授業外	授業関係	授業外	授業関係	授業外	授業関係	授業外
電子辞書								
オンライン辞書*								
辞書アプリソフト**								
辞書を持っていないか 持っているがあまり使っていないか 持っているがあまり使っていないか (指しているがあまり使っていない)								

*オンライン辞書: パソコンや携帯端末からオンラインアクセスして使用する辞書
 **辞書アプリソフト: タブレットやスマートフォンでも使用できる辞書機能のアプリキソフト

2) 普段電子辞書を使っていた(使う)人は、以下の a.~j. の中でよく使った(使う)機能すべての記号に〇を記入して下さい。 記入例) a) 発音・音読

また、今まで知らなかった(初めて知った)機能がなければ、選択肢全体を □ で囲んで下さい。
 (複数回答可) a. 発音・音読 b. 熟語・成句検索 c. 原文検索 d. スペルチェック
 e. ジェントンプラチ (参照中の辞書から、他の辞書を複数参照・検索・比較する機能)
 f. ヒストリー、履歴参照 (一時的に削除された部分自動的に履歴として残り、後で参照できる機能)
 g. 単語登録、単語帳 (引いた単語を単語帳として保存・整理する機能)
 h. マーカー・付箋 (紙辞書のように、付属の電子ペンでマーカーや付箋を打ち込める機能)
 i. ワイर्डカード検索 (スペルの一部が不明なときに音調でできる機能)
 j. その他 ()

*電子辞書を使ったことが無い人は、この質問には回答しなくて構いません。

*機能の名前はメーカーや商標によって異なるので、() 内の具体的な説明で判断して下さい。

C. 一般的な辞書使用に関する質問に答えてください。

- 1) 今までに英語の先生など周囲から、辞書を使うように促されたことがありますか。
 (はい ・ いいえ)
 「はい」と答えた人は、その詳細と促しに対してどうしたか、を例に挙げて答えて下さい。
 もし、時期や頻度などが異なる複数の機会があった場合は、それぞれを①～③を使って別記して下さい。
- 例 「中学1年生と3年生の時、英語の先生から頻繁に促され、そのとおりに促った」場合
 ①いつ: (小学・中学・高校・大学) (1, 3) 年生の時
 誰から: (学校の英語の先生・塾講師・親兄弟家族・他 [])
 どの程度: (常に・頻繁に・時々・数回程度)
 促しに対して: (促した・ある程度促った・あまり促わなかった・促わなかった)
- ②いつ: (小学・中学・高校・大学) () 年生の時、
 誰から: (学校の英語の先生・塾講師・親兄弟家族・他 [])
 どの程度: (常に・頻繁に・時々・数回程度)
 促しに: (促った・ある程度促った・あまり促わなかった・促わなかった)
- ③いつ: (小学・中学・高校・大学) () 年生の時、
 誰から: (学校の英語の先生・塾講師・親兄弟家族・他 [])
 どの程度: (常に・頻繁に・時々・数回程度)
 促しに: (促った・ある程度促った・あまり促わなかった・促わなかった)
- 2) 昔英和辞書や和英辞書を調べる時、第一語彙(1つ目の意味)の他にどの語彙をよく見ますか。
 以下のa～pから該当する選択肢の記号すべてに○をして下さい。
 *第一語彙以外の情報はあまり見ない場合は、この欄には回答しなくて構いません。

- a. 2つ目以降の他の語彙
- b. 熟語、成句
- c. 用例、例文
- d. スペル・綴り
- e. 品詞
- f. 発音(記号)、強勢の位置
- g. 見出し語に付いた*目の数
- h. 語形変化、派生語
- i. 語法・用法、文型
- j. 語の期日付、分節
- k. 挿絵、図、写真
- l. 語源・歴史など
- m. 類語、同意語、反意語
- n. 画みのコラム等 (問題情報、日本の面白い説明、等)
- o. 巻頭・巻末の付録 [画則即副活用表などを含む]

B. 使用辞書の重要に関する質問に答えてください。

1) (昔冊、電子、等の形態に関係なく) 現在に至るまでの、英和・和英・英英の各種辞書の使用頻度を教えて下さい。以下の表の中で1つずつ数字に○をして下さい。
 【数字の意味】

1. ほとんど(全く)使わず	2. あまり使わず	3. 時々使用	4. よく使用
英和辞書	和英辞書	英英辞書	
中学生入塾前: 1・2・3・4	1・2・3・4	1・2・3・4	1・2・3・4
中学生の時: 1・2・3・4	1・2・3・4	1・2・3・4	1・2・3・4
高校生の時: 1・2・3・4	1・2・3・4	1・2・3・4	1・2・3・4
大学入学後: 1・2・3・4	1・2・3・4	1・2・3・4	1・2・3・4

2) 上の設問の英和辞書について、
 A) 4つの時期のいずれかで、3か4に○をした人は、どんな時によく使いました(ます)か。
 下枠のa～hから選んで、各時期の記号に○をつけて下さい。(各時期、複数回答可)

中学生入塾前: a. b. c. d. e. f. ()	h. ()
中学生の時: a. b. c. d. e. f. ()	g. ()
高校生の時: a. b. c. d. e. f. ()	h. ()
大学入学後: a. b. c. d. e. f. ()	g. ()
a. 授業の予習・復習	b. 授業中
c. 受験勉強	d. 検定試験や書体取得の自主勉強
e. 塾や英会話学校など学校外で	f. その他

*「その他」の時: 語彙動で、英語以外の辞書で、なんとなく思いついた時、等

B) いずれかで、1か2に○をした人は、その理由を下枠から選んで記号に○をして下さい。
 (各時期、複数回答可)

中学生入塾前: a. b. c. d. e. f. g. h. i. j. k. ()	
中学生の時: a. b. c. d. e. f. g. h. i. j. k. ()	
高校生の時: a. b. c. d. e. f. g. h. i. j. k. ()	
大学入学後: a. b. c. d. e. f. g. h. i. j. k. ()	
a. 先生が意味を教えてくれた	b. 教科書巻末の単語リストを使った
c. 指風の単語帳・熟語帳を使った	d. 教科書ガイドを使った
e. 引いてみたが正しい情報が見つけられなかった	f. 友人などに尋ねていた
g. 辞書を通じてまだ内容を理解しようとした(引くのが面倒だった)	h. 先生が辞書を使わないうまい(使わう)
i. 使う機会がなかった	j. 辞書を持っていなかった
k. その他	

指示があるまで次のページに進まないでください。

